京都市 衛生環境研究所
にゅーす

平成22年度　No.2（通巻 112号）

特集

市民の健康と安全を守るために

ごあいさつ

私たち京都市衛生環境研究所は，食品，水，大気，そのほか，日常の生活に密接に関係している様々なものを対象に検査を行っていますが，これら検査に共通しているのは，私たちの行うすべての検査の目的が，「市民の皆さんの健康と安全を守る」ということです。

扱うのは「もの」であっても，その裏側には必ず「ひと」がいる。そのことを常に念頭におきながら，私たちは日々，業務にたずさわっています。

今回は，昨年１１月に実施した「健康危機管理訓練」を御紹介します。

この訓練では，「集団発生した原因不明の健康被害」を想定し，情報の収集と検査を行い，その「健康被害」を引き起こした原因物質を特定します。

訓練には正確性と同時に迅速性が要求され，原因物質を特定するには，蓄積された経験と確かな技術が必要です。研究所の職員は，訓練を通じて実戦感覚を養い，明日にでも起こるかもしれない健康危機に備えています。

今回の記事を通して，あまり知られることのない当研究所職員の日々の研鑽のさまを，ようやく皆さま方に御紹介することができ，感慨深いものがございます。

今後とも，京都市民の健康と安全を守る，京都市衛生環境研究所の活動に御理解と御協力を賜りたく，御願い申し上げます。

平成２３年１月

京都市衛生環境研究所長　石川　和弘

健康危機管理訓練を行いました

健康危機管理

「医薬品，食中毒，感染症，飲料水その他何らかの原因により生じる国民の生命，健康の安全を脅かす事態に対して行われる健康被害の発生予防，拡大防止，治療等に関する業務」（厚生労働省健康危機管理基本指針：平成１３年）

健康危機管理というと，とても難しそうに感じられると思いますが，たとえば，大規模な食中毒事件や，「冷凍ギョウザ事件」のような食品への有害物質の混入事件，新型インフルエンザの大流行などを例に考えていただければわかりやすいでしょう。

このようなときに，京都市衛生環境研究所は，検査分析機関そして感染症情報センターとして，原因物質を特定するための検査業務や情報の収集に，24時間体制であたります。

「正確な」検査結果を「早く」導き出すことが，被害の拡大防止につながります。

危機管理に対する研究所の「機能」がいざというときに正常に・正確に働くか。これを点検するための訓練が，毎年実施している「健康危機管理訓練」です。

平成20年度に京都市が実施した，新型インフルエンザの発生を想定した訓練などは，当時，新聞やテレビニュースなどでも大きく取り上げられました。

こうした日ごろの訓練が，平成21年の新型インフルエンザ流行に対して，いちはやく対応し，国が方針を示すよりも前に，独自に市内医療機関の協力のもと，全患者数の把握を行う体制を構築し，京都市内における流行を最小限にとどめることにつながりました。

過去の訓練の様子（京都市衛生環境研究所で）

「事件」は，「複数の人が同じような症状・体の不調を訴えている」という健康被害の通報から始まり，それが何かによる中毒なのか感染症なのか，わからないままに，私たちの検査はスタートします。

体の不調を訴える方の症状や，その人たちに「共通の食事の残り」，その「材料」，さらには症状を訴える方からの便などを対象に，私たちはあらゆる可能性を考え，いくつもの検査を同時に行っていきます。

そして，検査結果や現場などから聞き取った情報から，いくつもの「可能性」を一つひとつ打ち消し，最終的に「原因」を絞り込んでいきます。

「正確な」検査結果を「早く」導き出すためには，日ごろから検査技術を磨き，様々な情報を集めておくとともに，京都市役所や保健センター・市立病院などの機関はもとより，国，京都府など都道府県や他都市などとの連携も大切となります。

今回の訓練（事件発生の連絡を受け，所内の体制を整えます）

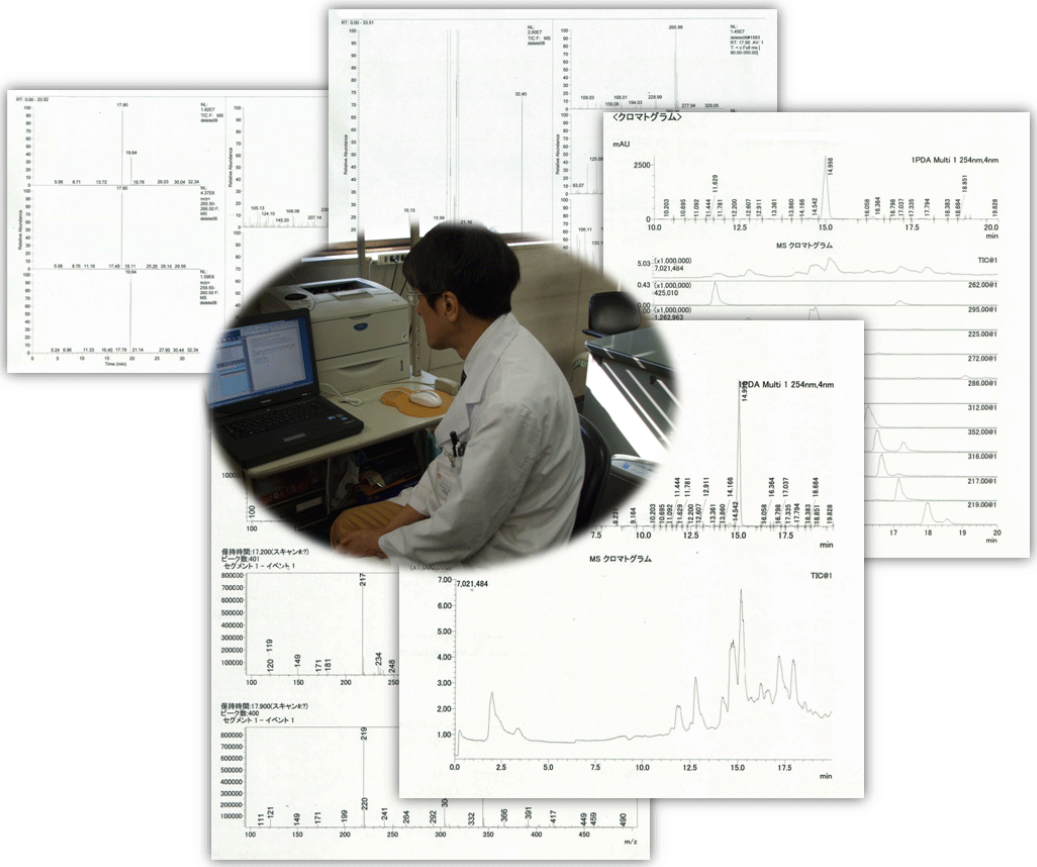
今回の訓練は，近畿17箇所の地方研究所と合同で行われました。

合同訓練の事務局である大阪府立公衆衛生研究所が，大規模な中毒事件を想定し，原因物質を含む，今回の検査対象物と現場情報を各地方研究所に提供します。

訓練に参加する研究所は，事務局からの「事件発生」の連絡を受け，体制を整え，提供された検査対象物と現場情報から，その原因を突き止めます。

事件の概要

子供会の自炊宿泊レクリエーションで，参加した子供が数十人規模で体調不良を訴えています！



今回の訓練（検査と同時に情報の収集も行います）

京都市衛生環境研究所では，事件発生の連絡を受け，まず，危機管理委員会を立ち上げ，検査の方針や分担を確認します。

緊張感が走る中，検査を担当する生活衛生部門（理化学検査担当）と微生物部門（細菌・ウイルス検査担当）は，管理課とともに情報の収集にも努めます。

事件発生の連絡から数時間，検査結果と集めた情報から，私たちは原因物質を特定しました。

その後は，事件発生現場の状況や関係者からの証言をもとに，なぜそのような大規模な中毒事件が起こったのか，事件の背景を組み立てていきます。

夕刻，事務局から訓練終了を告げる最後のメールが届いて，ほぼ１日にわたる訓練は終了しました。

今回の訓練は平日昼間に行われましたが，実際の事件は時間に関係なく，いつでも起こり得ます。それが休日や深夜のことであっても十分に対応し，いちはやく皆さまの安全・安心を確保できるよう，当研究所の職員は今後も研鑽を重ねてまいります。

食肉の安全・安心を守る

食肉検査部門

私たち，衛生環境研究所食肉検査部門は，京都市中央卸売市場第二市場（南区）内に併設されている「と畜場」において，食肉の検査（と畜検査）を行っています。検査を行う「と畜検査員」には，獣医師資格を持つ各自治体の職員が任命されます。現在，京都市には１２名の「と畜検査員」がおり，食用の牛や豚などの家畜について，１頭ごとに検査を実施しています。

と畜検査は，解体工程ごとに分かれており，① 生体（と畜前の健康状態を確認する検査），② 頭部，③ 内臓，④ 枝肉，⑤ セリ前（流通前の最終チェック）の５つの検査があります。

牛については，さらに牛海綿状脳症（ＢＳＥ）の検査を実施しています。

以上の検査で異常が認められた場合には，「保留検査」に移り，細菌，理化学，病理などの詳しい検査を追加で行います（右表(1)）。これらの検査を経て，食肉としての安全性を確認出来た物のみが市場へ流通する仕組みになっています。

また，食肉衛生に関する様々な調査・研究にも取り組んでおり，食肉の安全の向上に努めています（京都市衛生公害研究所年報 参照）。

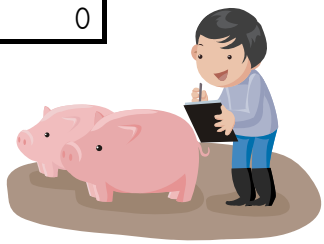
市民の皆様に安心してお肉を購入していただけるよう，これからも，私たち「と畜検査員」は安全な食肉の確保に努めてまいります。

〈平成22年度　と畜検査実施状況〉（平成22年11月末日現在）

(1)　と畜検査頭数と保留検査及び全部廃棄処分頭数

	検査頭数	保留検査	全部廃棄	
牛	5,304	26	6	下表 (2) a.
とく※	0	0	0	
馬	0	0	0	
豚	12,065	67	44	下表 (2) b.
めん羊	0	0	0	
山羊	0	0	0	

※生後１年未満の牛



(2)　主な廃棄理由と廃棄内訳

a．牛

廃棄理由	廃棄数
尿毒症	1
全身性腫瘍	0
白血病	3
高度の水腫	0
高度の黄疸	0
敗血症	2
抗生物質残留	0
その他	0
合計	6

b．豚

廃棄理由	廃棄数
豚丹毒	40
豚赤痢	0
全身性腫瘍	1
敗血症	1
サルモネラ	0
尿毒症	0
抗生物質残留	0
その他	2
合計	44

食肉検査部門や京都市衛生環境研究所のその他の部門の仕事や年報をホームページで御覧いただけます。

京都市衛生環境研究所トップページ
http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/soshiki/8-5-5-0-0_1.html

食肉検査部門
http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/soshiki/8-5-5-0-0_15.html

研究所年報
http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000010536.html

京都市内の
インフルエンザの発生状況を
ご覧いただけます！

管理課疫学情報担当

管理課疫学情報担当では，インフルエンザの流行時期に，ホームページでその発生状況をお知らせしています。

患者数は増えつつあるのか減りつつあるのか。

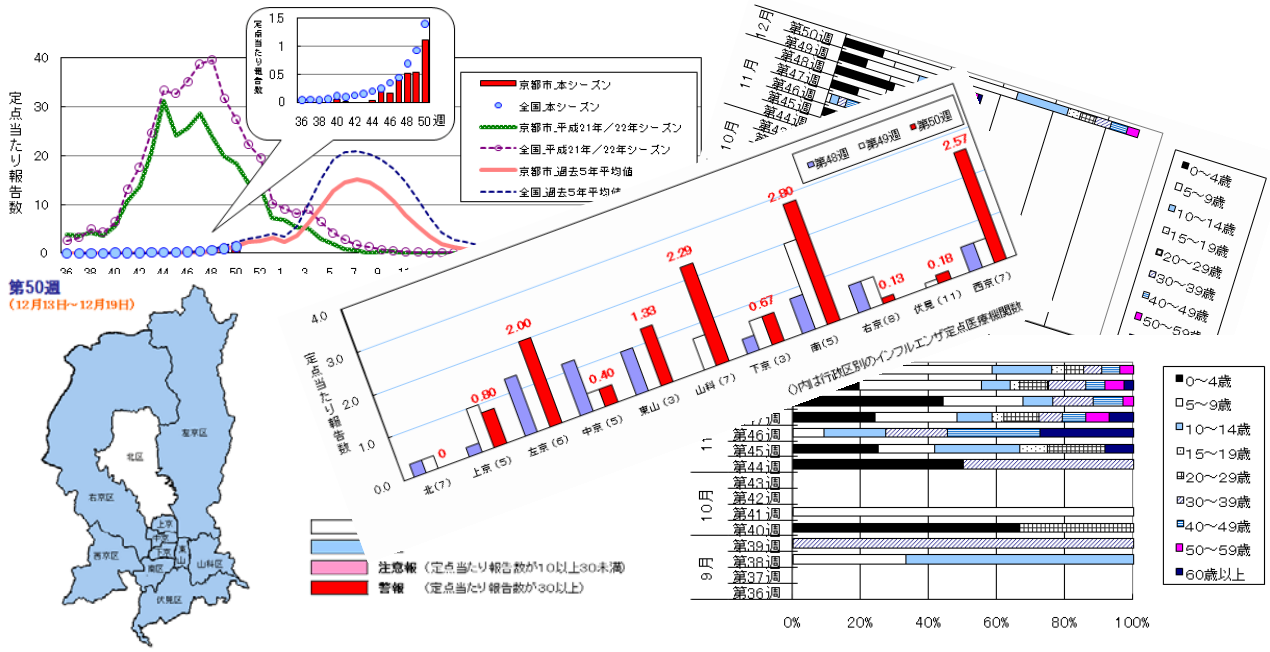
患者の年齢層はどれくらいなのか。

行政区によって患者の発生に差があるのか。　などなど…

グラフでわかりやすくご覧いただけます。

日ごろの感染予防に，どうぞお役立てください。

http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000091724.html



インフルエンザの感染予防には手洗いとうがいが効果的です

衛生環境研究所にゅーす

平成 22 年度　No.2
（通巻 112 号）

京都市印刷物　第 224626 号

編集・発行 京都市衛生環境研究所

〒604-8845　京都市中京区壬生東高田町１番地の２
（西大路松原東へ 200m南側）
TEL（075）312-4941（代）　FAX（075）311-3232

ホームページ　京都市衛生環境研究所　検索
http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/soshiki/8-5-5-0-0_1.html